



阿蘇山本堂 西巖殿寺奥之院

大改修

阿蘇山上の阿蘇山本堂西巖殿寺奥之院本堂は平成28年の突風被害、熊本地震、噴火等により大きく損傷し、かろうじて建っております。平成30年より大改修を行います。



阿蘇山本堂 西巖殿寺奥之院の歴史

- 726年(神亀3) 天然毘舎利国の最栄が阿蘇社に参詣し、本地仏十一面観音を安置 (阿蘇山日記抜書)
- 796年(延暦15) 阿蘇山上の神霊池が枯れ、古い早魁とでた。齋戒、読経などをした (日本後記)
- 1166年(仁安3) 宋西が、入宋に際し、阿蘇嶽などで修業し、筑前の宮崎宮などで航海の安全を祈願 (千光祖師年譜)
- 1281年(弘安4) 蒙古襲来の時、宝池が噴火し、肥前鷹島に青竜が現れ大風が起り、賊の船がことごとく壊れた (阿蘇山上宮奇瑞記抜書)
- 1375年(天授1) 懐良親王が阿蘇山に仏舎利を奉納 (西巖殿寺文書)
- 1599年(慶長4) 加藤清正が阿蘇社と坊中の復興を命じる (西巖殿寺文書)
- 1633年(寛永10) 細川忠利、阿蘇神主・社家・衆徒・行者などの所領を安堵 (阿蘇家文書、西巖殿寺文書)
- 1655年(明暦1) 彼岸に衆徒方と行者方から二人の僧侶が山上本堂に勤める (西巖殿寺文書)
- 1807年(文化4) 山上本堂の再建に着手、翌年成就 (町在)
- 1870年(明治3) 神仏混淆引き分けにより阿蘇山の号を用いることが禁止され、鎮国山と改める (西巖殿寺近世文書、寺社雑款)
- 1871年(明治4) 麓坊中の廃寺により山上本堂を衆徒祈禱所跡に下ろす
- 1896年(明治32) 西巖殿寺、旧阿蘇山本堂の西より本堂を建設、麓の本堂を根本中堂と改める



戦後、阿蘇山本堂 西巖殿寺奥之院にて長野の善光寺大勧進のご住職を迎えて挙行された盛大な「阿蘇山祭り」の様子



阿蘇山本堂 西巖殿寺奥之院 大改修ご支援のお願い



阿蘇山信仰1300年の法灯を後世に

阿蘇山は天竺より日本にきた最榮説師により神亀3年(726)に開かれました。

阿蘇山の火口を間近に望む阿蘇山本堂西巖殿寺奥之院では、古来より阿蘇火山が静かに鎮まるように祈る道場として信仰を集めてきました。平安末期からたくさんのお寺や山伏の庵が立ち並び、「三十六坊五十二庵」と称され、栄華を誇り、阿蘇山の麓に拠点があった江戸時代にも山上において火口静謐の祈願は続けられました。

戦後には、長野の善光寺大勧進のご住職を迎えて盛大な「阿蘇山祭り」が举行されるなど脈々と続く阿蘇山信仰の中心として存在し、現在でも火口が静かに鎮まるように祈り続けております。また、古くは室町時代より阿蘇山詣でのガイドを阿蘇山の山伏が行い、江戸時代には若い男女がお参りし、ここで縁が結ばれ結婚したと伝えられています。

平成20年には熊本県で初めての「恋人の聖地」に認定され、縁結びの聖地として多くの方にお参りを頂いております。

現在の奥之院の建物は、明治22年に再建されたもので、阿蘇山上の低温・火山ガス・強風・湿気などに耐えながら修理を重ねてまいりましたが、平成28年の熊本地震、同年の阿蘇中岳の噴火により甚大な被害を受けました。現在は危険防止の為、立入禁止となっております。

平成31年度より構造などの調査を行い、令和2年度より工事に着手する計画です。阿蘇山信仰1300年の法灯を後世に伝えるため、広く皆さまの御支援、御賛同を仰ぎ、伏して御協力お願いいたします次第です。何卒よろしくお願いたします。

阿蘇山本堂西巖殿寺奥之院
院主 鷲岡嶺照 拜



阿蘇山本堂 西巖殿寺奥之院 (2018年10月現在)

後世に伝えるために、
今、皆様のご協力をお願いたします。

【ご協力方法】

左側の振込用紙をお使いいただくか、右記の西巖殿寺へ現金書留にて住所・氏名・電話番号・口数をご明記の上、ご寄付金を添えて郵送ください。尚、1口2,000円とし、5口以上ご寄付頂いた方には記念のお札を授与し、ご芳名を阿蘇山本堂西巖殿寺奥之院内の寄進者銘板に記載させていただきます。(銘板記載を希望されない方は銘板記載不要)に印をご記入ください)



詳しい状況は西巖殿寺のホームページからもご覧頂けます

阿蘇山西巖殿寺

検索